

| | |
|------|-----------|
| 学校番号 | 学校名 |
| 505 | 奈良市立富雄中学校 |

学校評価(自己評価および関係者評価)

| 重点項目 1 | 学習指導 | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|--|----|---|--|
| 目標(目指す生徒像) | 取り組み・方策 | 評価指標 | 評価 | 成果・課題 | 学校関係者評価 |
| ○自ら学び、考えることのできる生徒 | ・基礎基本の定着を図る指導の工夫と改善をすすめる | 授業が分かりやすく、学校が楽しいと答えた生徒が80%以上いるか。 | A | 「学校へ行くのは楽しい」と答えた生徒は83%おり、多くの生徒が充実した学校生活を送っている。一方、「学校へ行くのは楽しくない」という生徒が4%、「あまりそう思わない」も含め17%の生徒が生き生きとした学校生活を送れていないと考えられる。 | 自宅特機となってオンライン授業で受講するというは時代に合った必要不可欠なもので、学びをどめない取り組みを強く意識していただいていると感じます。しかし、自主的に集中して学ぶ姿勢が子どもにあるか、と言われどそのてはないと感じています。授業内容の工夫は学校側においするり仕方ありませんが、家庭でもっと話し合う必要があるかとも思います。 |
| ・基礎的・基本的な知識と技能の習得に意欲的に取り組む生徒 | ・わかりやすい授業を目指した授業研究を行う | 授業のユニバーサルデザイン化をすすめる、タブレットなどの情報機器を活用した授業の推進をすすめる | B | ・「授業はわかりやすく、楽しく取り組んでいる」と答えた生徒は83%の一方、17%の「わからない」と答えている生徒がいる。上記と同様であることから、ほぼ同じ生徒が学習への課題を感じ、意欲的な学校生活を送れていないと考えられる。「一人ひとりに応じた学習支援をすすめている(教師68%)」、「家庭学習を指導、援助している(教師50%)」とあるように、そうした課題を持つ生徒に対してきめ細やかな個別対応が不十分であり、学習支援をどのようにすすめていくかが今後の課題である。また「子どもは授業がわかりやすい」と答えた保護者は54%であった。コロナ禍であるが、授業や放課後学習の様子をオンライン授業だけでなく、どのように伝えていくかという課題もめられる。 | ・「学びの個別最適化」が言われているように、どんな学びに対して、個々の家庭学習に対する指導や放課後学習支援との連携強化を進めていただきたいと考えます。課題を持つ生徒に対してきめ細やかな個別対応や、家庭学習の課題について教職員が共通理解を深めたいと思います。 |
| ・タブレットなどの情報機器を使って学習をすすめることができる生徒 | ・学び合い互いに高め合う生徒 | ・ペアやグループでの学び合いを充実させる ・コミュニケーションのためのソーシャルスキルを身に付けさせる | B | ・上記の解決策の一つとして、生徒どうしの学び合いによって居心地の良い集団作りをすすめることが学校経営方針にもあげられ、校内研究授業を各学期におこない、ICT利用と評価方法の協議と授業改善をすすめた。まず、学び合いについては、生徒は「ペアやグループ学習から学び合いができてきた」と答えた生徒は91%あり、学び合いの取り組みへの高い効果が期待できていることがわかる。「学び合いを活用した授業を工夫している」という教師は56%であり、授業改善を進めるか今後の研修課題。また「わからないから教えて」と訊くことのできる話し合い活動の基本となるコミュニケーションスキルを高めるための研修も必要である。次に、授業のユニバーサルデザイン化はほぼ定着(教師92%)し、オンライン授業配信、ICT活用についても一定の成果が見られた。(生徒92%、教師84%)特に生徒の習熟度が高いが、作品、レポート提出などアウトプット表現活動に利用し、評価にまで生かした使い方は十分至っておらず(教師61%)、さらなる効果的な活用方法が望まれる。 | ・理解力は読解力であることに気がついてほしい。文章を読み、書き手は何を言っているのか、何を問うているのか、何を求めているのかを自らで考える。そして自分の意見を表現する。読解力は自分で多くの文章を読んで訓練するしかありません。朝読書は大切です。 |
| ・互いに協力しながら、自分の考えや意見を表現することのできる生徒 | ・主体的・対話的で深い学び」についての職員研修をすすめる | 「主体的に学習に向かう態度」の評価方法についての共通理解を持てたか。 | B | ・「読書にしっかり取り組んでいる」と答えた生徒は83%であった。朝読書の時間を確保した効果であると考えられる。一方で家庭での読書習慣はなかなか身についておらず(生徒49%)、今後の指導課題である。 | ・本の手に取る機会が少なくなった中、朝読書は必ずと続けていただきたいです。図書室支援活動として、放課後の開館も進めていき生徒たちが本に触れる機会を増やしたいと思っています。またピリオナルの定期開催も先生方と共に取り組みたいと思います。本を読む面白さが伝われば家庭での読書も増えていくのでは期待します。 |
| ・課題克服に向け、自主的、計画的な学習がすすめられる生徒 | ・自主的、計画的な学習に向けての援助をすすめる | 授業と家庭学習をつなげる自主的、計画的な学習の習慣をつけるための取り組みができたか | B | | ・保護者は学校での子どもたちの様子などを見る機会が少なくなっていますので、なんらかの方法で発信の機会を増やしていただけたらと思います。 |
| ・本に親しむことのできる生徒 | ・読書活動のさらなる充実をすすめる | 読書に学校、家庭でもしっかりと取り組むと答えた生徒が70%以上いるか | A | | ・生徒どうしの学び合いについて「ペアやグループ学習から学び合いができてきている」と答えた生徒は91%あり、学び合いの取り組みへの高い効果を示されました。「学び合いを活用した授業の工夫」をさらに今後の課題とし積極的に取り組んでほしい。 |

| 重点項目 2 | 生活指導 | | | | |
|-----------------------|--|--|----|---|---|
| 目標(目指す生徒像) | 取り組み・方策 | 評価指標 | 評価 | 成果・課題 | 学校関係者評価 |
| ○正しい判断のもと、主体的に行動できる生徒 | ・生徒指導通信や学級通信による啓発や教師の実践 | ・あいさつや言葉づかい、時刻等、基本的な生活習慣について意識し、生活していると回答した生徒・保護者の回答平均が90%以上 | B | ・基本的な生活習慣についてできていると回答した生徒(93.9%)、保護者(82%)の平均は88%であり、昨年度の87%を若干上回った。今年度は挨拶に関する啓発を全校集会や生徒指導通信で複数実施したことや生活委員会の生徒が生活習慣向上キャンペーンにて毎学期呼びかけをしたことが活きていると感じる。また、校門で教員が立哨-挨拶活動していることも大きいと感じる。来年度は目標で90%を超えたいと、取り組みの質をあげることや、さらなる改善を図りたい。 | ・注意されている挨拶ではなく、気持ちのいい挨拶ができていると思います。それは、先生方が校門でされている立哨-挨拶活動から自然と生まれているものだと感じています。 |
| ①基本的な生活習慣を身に付ける | ・健康・安全に関する知識を取得し、それを理解し、正しく行動できる生徒 | ・命の大切さやいじめが許される行為ではないことについて学び正しく実践していると回答した生徒・保護者の回答平均が90%以上 | A | ・委員活動を始めとする役割について、できていないと回答した生徒(93.9%)、保護者(86.8%)の平均は90.4%であった。保護者の肯定的回答率が昨年度より5%近く低下したこともあり、学校で子供教育のこのよう取り組みをしている姿をHPや通信等で保護者にお知らせする必要性を感じた。さらなる活性化に向けて、全教職員で意識を高持ち取り組んでいきたい。 | ・挨拶に関しては本年度はあらゆる場を利用して啓発実施し、生徒が自ら呼びかけ、校門では教員が挨拶活動に取り組み生徒に受け入れられたことは一定の評価が得られる。指導でも積極的に協力取り組み課題もある。 |
| ②自らの命や他者を大切にできる生徒 | ・健康・安全に関する知識を取得し、それを理解し、正しく行動できる生徒 | ・自分の存在意義や他者の存在意義について深く考えることができる生徒 | A | ・命の大切さやいじめが許される行為ではないことについて学び正しく実践している回答した生徒(93.9%)、保護者(86.8%)の平均は90.4%であった。保護者の肯定的回答率が昨年度より5%近く低下したこともあり、学校で子供教育のこのよう取り組みをしている姿をHPや通信等で保護者にお知らせする必要性を感じた。さらなる活性化に向けて、全教職員で意識を高持ち取り組んでいきたい。 | ・先生方から指導による挨拶運動など生徒たちの意識を高める取り組みをしていただき、生活でも落ち着いている生徒が多いと感じます。校外学習で守れなかったルールについて、生徒たちが反省次第は必ずルールを守るという指導をして下さったと思いますが、生活習慣やルールについては家庭との連携も必要かと思えます。 |
| ③規範意識の醸成 | ・法の理解の下、正しく行動できる生徒 | ・社会におけるルールやマナーについて学び、それに基づき生活していると回答した生徒・保護者の回答平均が90%以上 | A | ・命の大切さやいじめが許される行為ではないことについて学び正しく実践している回答した生徒(93.9%)、保護者(86.8%)の平均は90.4%であった。保護者の肯定的回答率が昨年度より5%近く低下したこともあり、学校で子供教育のこのよう取り組みをしている姿をHPや通信等で保護者にお知らせする必要性を感じた。さらなる活性化に向けて、全教職員で意識を高持ち取り組んでいきたい。 | ・先学年時代は生活指導の大きな時期に当たります。その生徒の家庭環境や親の考え、家庭教育によって左右されることも多いと思います。その為にも集団的な学校での生活指導も大切にして、入塾して「せねばならない事」「してはいけない事」「倫理・道徳の大切さ」を教えないといけないと思います。 |
| ④自己決定力、自己指導力の増進 | ・自分で考え、判断し、実践できる生徒(周囲のことも考えながら発信・行動できるように) | ・物事について自分で正しく判断し実践したり、失敗したときに自己を見つめ直ししている回答した生徒・保護者の回答平均が90% | B | ・物事についての判断・実践・改善の項目については生徒(94.1%)に対し、保護者(80.9%)、教員(92.1%)であった。学校生活でべすと考え実践しているレベルよりもさらに高いレベルを保護者の方は望んでおられることがわかった。発達段階については十分考慮した上で、より高いレベルを目指すための投げかけを子供達にしていきたい。また、自身の進路や将来の夢に向き合う機会、自己実現や自己決定の機会を増やすことを意識していきたい。 | ・この数年で生徒たちが登下校時に大きな声で挨拶してくれるの嬉しく思います。学校近辺だけでなく、校区内の地域の方の見守りの折に、挨拶をしてくれるよう、ご指導をお願いします。委員会活動の様子を知る機会が少ないので、ご紹介いただける機会があるとありがたいです。前年度の活動の記録にとどまらず、この件に関してはアンケート等の「理解している、実践できている」という回答はまった(あてにはならない)と考えます。常に学びを重んじ、自ら考える機会を持てようとする意識をお願いします。 |

| 重点項目 3 | 人権教育 | | | | |
|---|---|---|----|--|---|
| 目標(目指す生徒像) | 取り組み・方策 | 評価指標 | 評価 | 成果・課題 | 学校関係者評価 |
| ○豊かな心を持ち、人権を大切にできる生徒 | ・自尊感情を持つ生徒 | ・互いの考え方の違いを認め、共に生きる姿勢を育てることができると回答した生徒が90%以上いるか | A | ・「道徳の授業等で、人権や人間関係づくり等について学習する機会が多い」と答えた生徒の数は94%で職員は84%と、それぞれ前年度より3%、17%上昇。これは、道徳の教科化により教科書を使用した授業を行う機会を多く持った結果によるものと考えられる。また「人権について学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた生徒の割合は97%で、「人権について学んだことを活かし、自分や仲間を大切にできる生徒を育てようとしている」と答えた教員の割合は87%と昨年度より上がっている。これらの数値は毎年少しずつ上がっており、人権について考える学習が定着しつつあると思われる。一方で一定の成果は見られるものの、生徒がよい実践や思いを知りたて理解したり受け入れられたコミュニケーションに努める姿勢を日常生活に生かせるためには今一歩至っていないのではないかと教職員が感じているのではないかと、また授業で様々なことを考えさせることはできているが、正解を教える生徒が多く、一時間ずつという道徳の授業でも生徒の人権意識を育てる工夫や職員の姿勢が必要である。 | ・生活面や他の活動面も含めて、生徒がそれぞれの強みや意欲をもて活動を知り、それぞれの活動においてそれらを活かせるよう場づくり、学習場面に限らず、生活のあらゆる場面で発揮される個々の強みや意欲をお互いが取り、尊重し、活かしかねるような日常の人間関係づくりが、学習場面で「学び合い」にもつながっていくという考えもあわせて、考えていきたいと考えています。 |
| ・互いに人権を守れる生徒 | ・学年を越えてステップアップしていく「生徒育成の重点」を常に意識して指導する | 「人権について学んだことを生かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた生徒が90%以上いるか | A | ・今年度教職員でのSDGsの研修を行った。研修を生かし授業を展開できた学年もあり、社会の一員として生活する人間としての学習に教職員、生徒共に取り組む必要がある。道徳の教科書を使い、分かりやすい人権に関する問題を扱ったともに、身近な人権に関する出来事や男女差別やLGBTIに関する学習など、生徒の人権意識自体をさらに高める取り組みが必要である。 | ・今年度の授業で学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた生徒の割合は97%と高いのは、学校行事が盛り上がる中、生徒が主体的に活動に参加し、人権について学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた教員の割合は87%と昨年度より上がっている。これらの数値は毎年少しずつ上がっており、人権について考える学習が定着しつつあると思われる。一方で一定の成果は見られるものの、生徒がよい実践や思いを知りたて理解したり受け入れられたコミュニケーションに努める姿勢を日常生活に生かせるためには今一歩至っていないのではないかと教職員が感じているのではないかと、また授業で様々なことを考えさせることはできているが、正解を教える生徒が多く、一時間ずつという道徳の授業でも生徒の人権意識を育てる工夫や職員の姿勢が必要である。 |
| ・仲間同士で意見を交流し互いの考え方を認め、コミュニケーション能力の向上を図る | ・仲間同士で意見を交流し互いの考え方を認め、コミュニケーション能力の向上を図る | 「学校行事についての活動が楽しく、仲間と協力して取り組んでいる」と答えた生徒が90%以上いるか | A | ・この設問だけでは実際の把握が十分ではないが、今年度の限られた取り組みの中でも「学校行事が楽しく、仲間と協力して取り組んでいる」と答えた生徒の割合が97%と高いのは、学校行事が盛り上がる中、生徒が主体的に活動に参加し、人権について学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた教員の割合は87%と昨年度より上がっている。これらの数値は毎年少しずつ上がっており、人権について考える学習が定着しつつあると思われる。一方で一定の成果は見られるものの、生徒がよい実践や思いを知りたて理解したり受け入れられたコミュニケーションに努める姿勢を日常生活に生かせるためには今一歩至っていないのではないかと教職員が感じているのではないかと、また授業で様々なことを考えさせることはできているが、正解を教える生徒が多く、一時間ずつという道徳の授業でも生徒の人権意識を育てる工夫や職員の姿勢が必要である。 | ・生活面や他の活動面も含めて、生徒がそれぞれの強みや意欲をもて活動を知り、それぞれの活動においてそれらを活かせるよう場づくり、学習場面に限らず、生活のあらゆる場面で発揮される個々の強みや意欲をお互いが取り、尊重し、活かしかねるような日常の人間関係づくりが、学習場面で「学び合い」にもつながっていくという考えもあわせて、考えていきたいと考えています。 |
| ・仲間同士で意見を交流し互いの考え方を認め、コミュニケーション能力の向上を図る | ・仲間同士で意見を交流し互いの考え方を認め、コミュニケーション能力の向上を図る | 「学校行事についての活動が楽しく、仲間と協力して取り組んでいる」と答えた生徒が90%以上いるか | A | ・この設問だけでは実際の把握が十分ではないが、今年度の限られた取り組みの中でも「学校行事が楽しく、仲間と協力して取り組んでいる」と答えた生徒の割合が97%と高いのは、学校行事が盛り上がる中、生徒が主体的に活動に参加し、人権について学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた教員の割合は87%と昨年度より上がっている。これらの数値は毎年少しずつ上がっており、人権について考える学習が定着しつつあると思われる。一方で一定の成果は見られるものの、生徒がよい実践や思いを知りたて理解したり受け入れられたコミュニケーションに努める姿勢を日常生活に生かせるためには今一歩至っていないのではないかと教職員が感じているのではないかと、また授業で様々なことを考えさせることはできているが、正解を教える生徒が多く、一時間ずつという道徳の授業でも生徒の人権意識を育てる工夫や職員の姿勢が必要である。 | ・今年度の授業で学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた生徒の割合は97%と高いのは、学校行事が盛り上がる中、生徒が主体的に活動に参加し、人権について学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた教員の割合は87%と昨年度より上がっている。これらの数値は毎年少しずつ上がっており、人権について考える学習が定着しつつあると思われる。一方で一定の成果は見られるものの、生徒がよい実践や思いを知りたて理解したり受け入れられたコミュニケーションに努める姿勢を日常生活に生かせるためには今一歩至っていないのではないかと教職員が感じているのではないかと、また授業で様々なことを考えさせることはできているが、正解を教える生徒が多く、一時間ずつという道徳の授業でも生徒の人権意識を育てる工夫や職員の姿勢が必要である。 |

| 重点項目 4 | 地域連携 | | | | |
|-----------------------|---|--------------------------------------|----|--|---|
| 目標(目指す生徒像) | 取り組み・方策 | 評価指標 | 評価 | 成果・課題 | 学校関係者評価 |
| ○地域社会の一員であることを自覚できる生徒 | ・教員自身が地域の願いや活動の目的を理解し生徒に伝える。 | 教職員が地域の人の思いや願いを理解しているか | A | ・コロナが蔓延する中、感染予防に留意し、今年度も地域の活動を通して中学生が地域や地域の方々とふれあう機会を持てていただいた。花咲きローには季節ごとに美しい花が咲き乱れ、中学生自身も「自分たちの手で地域を美しくしよう」という思いが強く持たされ、生徒への「学校は地域のひとたちと一緒に、学ぶ機会を作ってくれている」という設問に対しては81.5%もの肯定的意見があるにもかかわらず、活動への参加率は相変わらず低い。また、教師への「学校で活動している地域の人の思いや願いを理解している」という設問に対しては86.8%の肯定意見があるものの、教師の地域活動への参加意欲は薄く、今後は、例えば「中学校の教師が行っている毎月17日朝の朝の立哨を地域の方と共に実施する」や「定期的に中学校で行っている生活委員による朝のあいさつ運動の地域の方々も参加していただく」など、協働体制を作っていく必要性が感じられる。 | ・学校行事でのボランティア活動やSASなど地域の方が快く協力してくれる地域だと思います。地域の方の活動を見て子どもたちが少しでも地域の一員として何か役に立つことが出来る大人に成長していただくことを願います。 |
| ・地域の行事に参加し、郷土愛を育める生徒 | ・地域での学びや活動の中で子どもたちが地域(社会)の一員であることを実感させるとともに、自己有用感の醸成を図る | 地域活動を通して生徒に「自己有用感」を感じさせることができたか | B | ・この設問だけでは実際の把握が十分ではないが、今年度の限られた取り組みの中でも「学校行事が楽しく、仲間と協力して取り組んでいる」と答えた生徒の割合が97%と高いのは、学校行事が盛り上がる中、生徒が主体的に活動に参加し、人権について学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた教員の割合は87%と昨年度より上がっている。これらの数値は毎年少しずつ上がっており、人権について考える学習が定着しつつあると思われる。一方で一定の成果は見られるものの、生徒がよい実践や思いを知りたて理解したり受け入れられたコミュニケーションに努める姿勢を日常生活に生かせるためには今一歩至っていないのではないかと教職員が感じているのではないかと、また授業で様々なことを考えさせることはできているが、正解を教える生徒が多く、一時間ずつという道徳の授業でも生徒の人権意識を育てる工夫や職員の姿勢が必要である。 | ・コロナ禍での活動に制限があり、残念に思っています。しかしながら参加した生徒については、保護者でもなく、先生でもい大人から、認められられることにより自己有用感を高め、成長をしていく姿を目の当たりにしています。今後とも生徒が地域の一員として活動に参加してくれることを期待します。 |
| ・郷土学習に取り組む | ・郷土学習に取り組む | 地域の一員として何か役立つことができると思っている生徒が80%以上いるか | A | ・この設問だけでは実際の把握が十分ではないが、今年度の限られた取り組みの中でも「学校行事が楽しく、仲間と協力して取り組んでいる」と答えた生徒の割合が97%と高いのは、学校行事が盛り上がる中、生徒が主体的に活動に参加し、人権について学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた教員の割合は87%と昨年度より上がっている。これらの数値は毎年少しずつ上がっており、人権について考える学習が定着しつつあると思われる。一方で一定の成果は見られるものの、生徒がよい実践や思いを知りたて理解したり受け入れられたコミュニケーションに努める姿勢を日常生活に生かせるためには今一歩至っていないのではないかと教職員が感じているのではないかと、また授業で様々なことを考えさせることはできているが、正解を教える生徒が多く、一時間ずつという道徳の授業でも生徒の人権意識を育てる工夫や職員の姿勢が必要である。 | ・この2年間、「地域の一員として役に立っている」という思いを持っていても、それを実現化する機会がなかなか持てなかったことが残念でした。頭で考えることと実際に行動することは違いますが、それは生徒にとっても教職員にとっても地域にとっても同じです。今できるベストをしっかりとした協働のうえで実行に移せるようにできればと思います。 |
| | | 奈良や富雄について学ぶ機会を積極的に持っているか | B | ・この設問だけでは実際の把握が十分ではないが、今年度の限られた取り組みの中でも「学校行事が楽しく、仲間と協力して取り組んでいる」と答えた生徒の割合が97%と高いのは、学校行事が盛り上がる中、生徒が主体的に活動に参加し、人権について学んだこと活かし、自分や仲間を大切にできている」と答えた教員の割合は87%と昨年度より上がっている。これらの数値は毎年少しずつ上がっており、人権について考える学習が定着しつつあると思われる。一方で一定の成果は見られるものの、生徒がよい実践や思いを知りたて理解したり受け入れられたコミュニケーションに努める姿勢を日常生活に生かせるためには今一歩至っていないのではないかと教職員が感じているのではないかと、また授業で様々なことを考えさせることはできているが、正解を教える生徒が多く、一時間ずつという道徳の授業でも生徒の人権意識を育てる工夫や職員の姿勢が必要である。 | ・地域連携の「花咲きロード」や校内清掃等それぞれ地域の方々と一緒に植栽の手入れや、水やり、ワックス掛け、ペンキ塗り、など嫌がらずに作業してくれてありがたいです。コロナ禍でのボランティアの講義、研修等も、担当学年の先生方との協力でも、無事に終える事が出来ました。 |

※ 評価について A...十分達成した B...大旨達成した C...努力を要す